

ピックアップテーマ
AI時代に向けた「製造業」PLMの再整備

■特集期間：2026年3月30日（月）～ 5月29日（金）予定

■お申込み締切

コンテンツ制作あり：2026年2月16日（月）

コンテンツ制作なし：2026年3月6日（金）

ピックアップテーマとは

MONOist編集部が注目するテーマについて、編集記事を集約した特集ページを開設
メディアと連携した企画展開で、貴社コンテンツを製造業読者・会員に訴求します



特集ページを開設

編集部が注目するテーマについて特集ページを開設します。貴社コンテンツに加えて編集部による解説や関連する編集記事を掲載して、専門性が高く情報収集に熱心な読者に情報発信をします。



認知向上も実現

MONOist／EE Times Japan／EDN Japanからのバナー広告枠を利用し、本特集ページへ誘導をかけます。また特集ページには貴社ロゴを掲載いたします。通常のリード獲得案件より製造業での認知向上も実現できます。



コンテンツ制作付き お得なプラン

本特集ならではの費用対効果を見込めるお得なプランを用意しております。PRする絶好の場として、本特集をご活用いただけますと幸いです。

【製造・建設】特集展開イメージ

メディア上から誘導



特集ページを新設



貴社ロゴ掲載

貴社コンテンツへ誘導



リード納品

獲得したリードは管理サイトでダウンロードできます（日次更新）



関心・専門性の高い会員を誘導

TechFactory、MONOistを中心とする当社運営の製造業向けメディア会員へメールで貴社コンテンツへ誘導いたします



特集テーマ：「AI時代に向けた「製造業」PLMの再整備」

部分的な活用に留まっていたPLM 導入の課題とAI活用が課題解決のキーになるのかを探ります

製品の企画から設計、製造と保守まで製品ライフサイクルデータを包括的に管理するPLM。これまでも製造業の生産性向上に役立つソリューションとして採用が広がってきましたが、昨今改めてその活用に注目が集まっています。再注目されている理由は大きく分けて2つあります。1つが、モノづくり工程のDXが進んだことにより、個々の工程ではデジタル化が進んでいる一方、部門間のデータ連携が課題となり、これらを解決するツールとしてPLMを活用しようという動きです。もう1つが、将来的に製造領域においてAI活用の進展が想定される中で、その学習に用いるデータ基盤として、製品ライフサイクルにまつわるさまざまなデータを統合管理できるPLMの役割が再評価されているためです。本特集では、新たな進化を見せるPLMの動向をお伝えします。

キーワード	PLM、PLMに関連するソリューション
読者・会員 課題	部門間のデータ連携、業務の属人化、人手が必要な多くのアナログ業務
想定リード属性	製造業の研究・開発・設計部門、生産管理・工場部門などでモノづくりに関わる方
実施メディア	TechFactory／MONOist
実施期間	2026年3月30日（月）～ 5月29日（金） 予定
申込締め切り	コンテンツ制作あり：2026年2月16日（月） コンテンツ制作なし：2026年3月6日（金）
提供リード数	140件保証（プラン毎に異なります）
料金	110万円（プラン毎に異なります）

特集ページ イメージ

貴社ロゴ掲載

ご協賛社様 コンテンツ掲載

制作したタイアップ記事や貴社製品・ソリューションに関するホワイトペーパーやウェビナーを掲載

関連記事掲載

テーマに関する最新事例などを紹介した編集記事を掲載

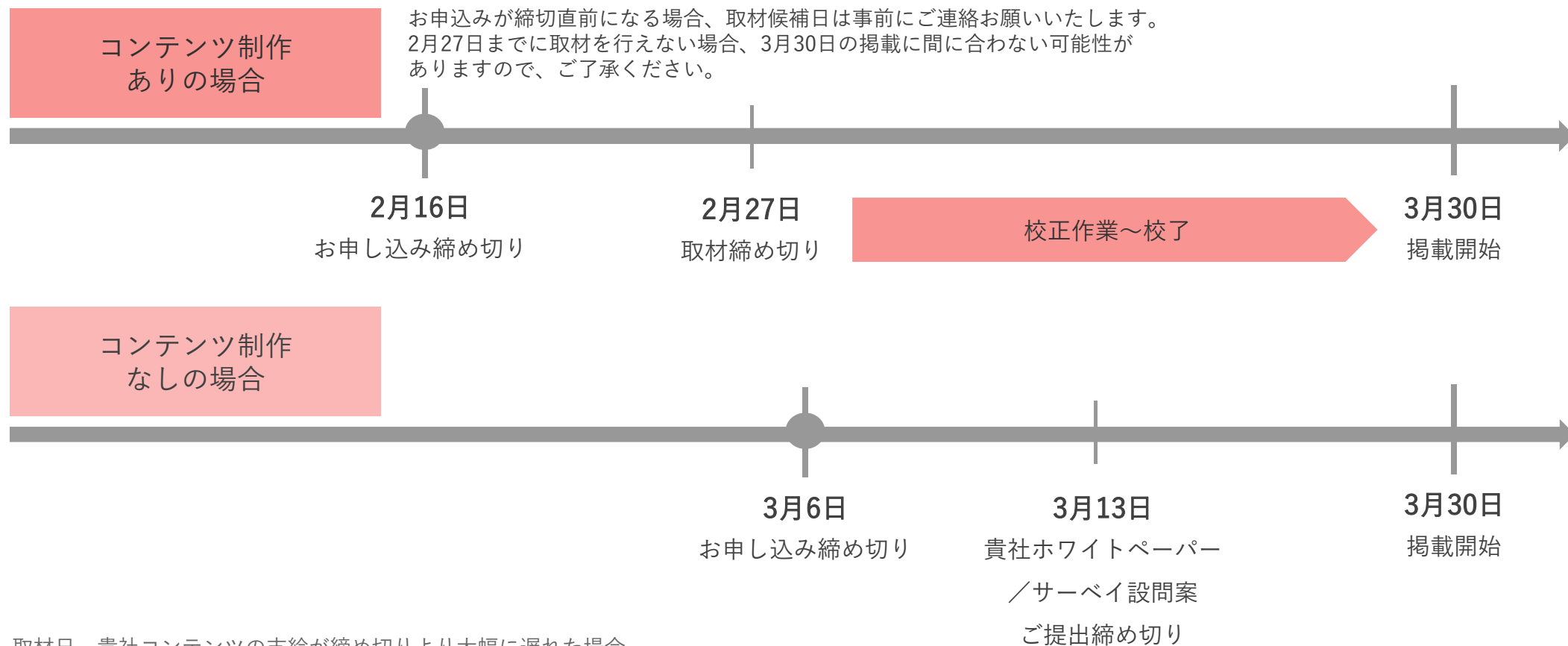
【製造】ピックアップテーマご協賛プラン

	プラチナプラン ¥2,500,000 (110万円OFF)	ゴールドプラン ¥1,700,000 (70万円OFF)	シルバープラン ¥1,100,000 (40万円OFF)	ブロンズプラン ¥700,000 (20万円OFF)
ご提供リード数 ・セグメント条件の設定はありません	280件保証	160件保証	140件保証	80件保証
コンテンツ数	4本	2本	2本	2本
タイアップ記事制作	1本	1本		
ホワイトペーパーご支給 ※お手持ちのコンテンツをご用意ください	3本	1本	2本	2本

- ※ 料金は税別、グロスです。
- ※ ホワイトペーパーをお持ちでない場合、別途費用が発生しますが制作プランがありますので、担当営業までご相談ください。
- ※ プランのカスタマイズも可能です。担当営業までご相談ください。
- ※ ご協賛状況により、実施見合わせとなる可能性がありますので、予めご了承ください。
- ※ リード獲得期間は2カ月間を想定しています

スケジュール_ピックアップテーマ

コンテンツ制作の有無によって、お申し込み締め切り日をはじめとした各種スケジュールが異なります。ご注意ください。



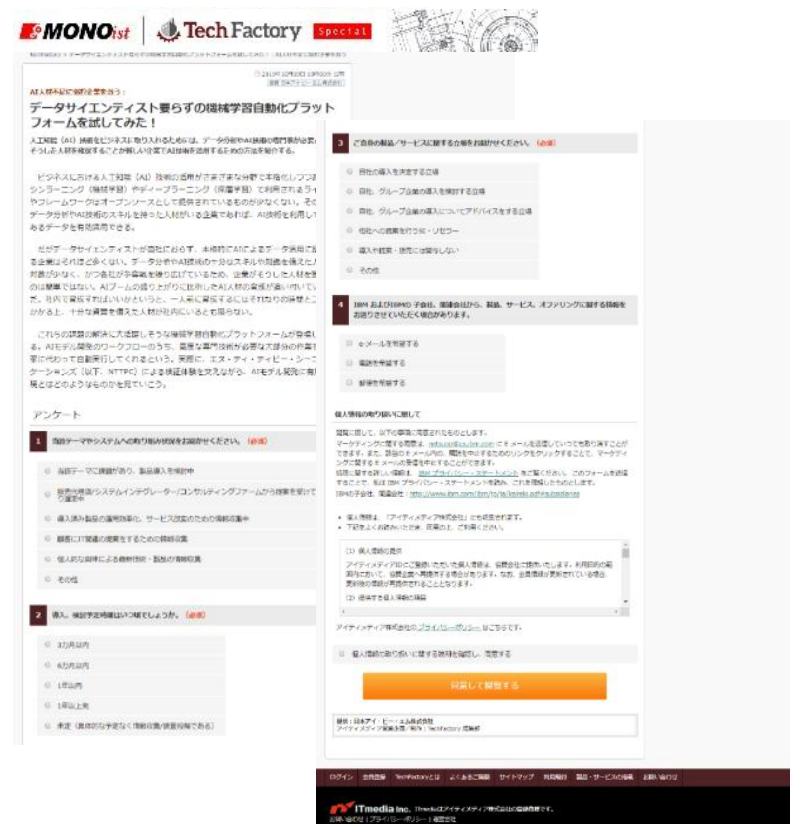
取材日、貴社コンテンツの支給が締め切りより大幅に遅れた場合、特集ページに掲載されない場合がありますので、ご了承ください。

プラチナプラン限定特典（タイアップ記事に限ります）

MONOist トップページ／記事ページから、MONOist読者をタイアップ記事へ誘導



貴社コンテンツ イメージ



編集タイアップ仕様詳細

編集部が企画、取材、編集を担当するタイアップ記事を制作（二次利用も可能）

- 編集タイアップについて
 - 編集部が企画、取材、編集を担当するタイアップ記事広告です
 - 冒頭部分はだれでも閲覧でき、「続きを読む」でリードを獲得します
- コンテンツ仕様
 - ページ数：1html
 - 文字数：4,000文字程度（うち、500文字程度が公開ページ掲載分）
 - 図版点数：3点まで（写真／イメージ図版主体）
 - 企画協力：あり
 - 取材有無：あり
- 備考
 - 取材から掲載までの期間は約17営業日となります
 - 原稿の校正はテキスト原稿、HTMLの各1回ずつを想定しており、校正の回数に応じて、公開までの日数は適宜変動いたします
 - 記事広告内に掲載するイメージ図版は貴社にてご用意ください
 - 終了後も一部を除きコンテンツは掲載され続けます
 - タイアップ記事のPV、UBのレポートはございません
 - 遠方での取材や有識者のアサイン、特別な制作費（イラストなど）が発生する場合は、別途追加費用を申し受けます
 - 広告主様の都合で合意いただいた内容から大きく変更を行う場合、以下費用が発生します
 - 初校の出し直し：¥300,000、念校以降の修正：¥100,000
- 二次利用について
 - 制作した記事広告の著作権は、当社および制作スタッフ（ライター、カメラマンなど）に帰属します
 - 本企画にて制作した記事広告は、改変がなければ無償で二次利用していただくことが可能です（ウェブ上での利用に限定、要出典表記）
 - 印刷物でのご利用は二次利用費が発生いたしますので、利用をご希望される場合は、担当営業までお問い合わせください
- オプション：カスタム記事パンフレット制作
 - 制作した編集タイアップ記事をPDFや印刷物でご利用いただける有料オプションもございます。詳細は担当営業までお問い合わせください

※二次利用には一部条件がございます

ITmedia

© 2020年06月20日 10時00分 公開

ニューノーマル時代のVPN課題を解決

堅牢性と利便性を両立する VPN強制と“インターネットブレイクアウト”とは？

コロナ禍のテレワークで利用者やクラウドサービスが増え、VPNの導入（「むづか」）やVPN接続を徹底できないなど、VPN導入の課題が浮き彫りとなった。セキュリティと利便性の両立を実現する解決策を紹介する。

[PR/キーマンズネット]

端末のVPN接続をソフトウェアで「強制」する

「社内に端末があるとき『業務に必要なWebサイトにはアクセスできない』といったグレートウェイ対策を実施していれば、データの流出や不正なマルウェアのダウンロードといったリスクを抑えることができます。ですが、社内に端末を持ち出して、直接インターネットにアクセスしてしまうと、社内ネットワークで実施しているグレートウェイ対策が一切効かない状態となり、統制もできません。これは企業にとって大きな問題です」。こう指摘するのは、アシストの技術者、富士本 博紀氏（アクセスインフラ技術統括部）だ。

こうした問題を解決するのが、日立ソリューションズが開発した情報セキュリティ対策ソフトウェア「秘文シリーズ」の一つ、「秘文 Device Control」だ。端末のインターネット接続時に検出されると想定される秘密のセキュリティリスクを最小化できる。各端末にインストールしておけば、社内の業務サーバを利用する際の通信をVPNに接続させるよう「強制」可能で、VPN経由のインターネットアクセスを促進するソフトウェアだ。

富士本氏は次のように力を込める。「秘文 Device Controlの大きなメリットは、利用者が全く意識しなくても使えるところだ。直接インターネットに接続する画面を裏で禁止しているだけなので、利用者は意識通りVPNに接続して業務を遂行すればよいということです。セキュリティ製品にもかわらわらず利便性を損なわないのは、とても素晴らしい点です」。

VPN経由の接続を強制（社外利用）

接続先チェック機能の確認の結果から、社内ネットワークを通常接続、社外ならVPN接続の通信のみ許可するようにします。

図1 VPN接続強制機能とは（出典：アシスト）

どのように端末の社外利用を判定するのか

社外には、自宅Wi-Fiだけでなく喫茶店や駅の公衆無線LANなどさまざまなアクセスポイントがある。秘文 Device Controlは端末が社外からの利用であると判定しVPN接続を強制するというが、どのように社内/社外のネットワークを判定するのだろうか。

その方法は二重の仕組みとなっている。秘文 Device Controlは、接続したアクセスポイントのSSID名が、あらかじめ指定した社内のSSID名と異なる場合に社外と判定し、VPN接続を強制する。しかしこの方法だけでは、悪意を持った従業員が、社内アクセスポイントと同一SSID名を偽装できてしまう恐れがある。このため社内にあるサーバに対してping通信（応答の確認）を実行し、応答が正常に返ってくることで初めて社内ネットワークと判定する。

「社内ネットワークの判定にIPアドレスを使っている同様のソフトは多いが、『SSID名+ping』でより厳密に確認できることが秘文 Device Controlの特長です」と富士本氏は強調する。



■お問い合わせ

アイティメディア株式会社 営業本部
〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町3-12
紀尾井町ビル 13階

<https://promotion.itmedia.co.jp/contact>